

## 雨量局の閉局作業を行いました（酸ヶ湯雨量局、寒水沢雨量局）

今年も年の瀬が迫り、寒さが一段と身にしみる季節となりました。  
青森市のスキー場では、リフトの取付作業が終了し、本格的なウィンターシーズンを迎えています。  
下湯ダムでも、あたり一面が雪景色となり、幻想的な風景を生み出していますが、このダムでも、この時期に行う恒例行事があります。雨量局の閉局作業です。



右の写真は、下湯ダム流域内にある「酸ヶ湯雨量局」の写真です。この日の積雪は約20cmで、長靴でも難なく現地へ行くことができました。局舎の左後方に写っているのが硫黄岳の頂で、真っ白な雪と澄んだ青空の調和が素晴らしく、まさに絶景でした。



屋根の上にかすかに映っているのが雨量計で、この日はこの雨量計を取り外しにきました。その理由は・・・。

H28.11.18

次の写真は、平成26年1月に撮影した「寒水沢雨量局」の写真です。こちらと同じ流域内にあり、「酸ヶ湯雨量局」から約4km離れた場所にあります。どちらも全国的に有名な豪雪地帯にあるため、ピーク時には4～5mの積雪となり、局舎自体が埋ってしまうことがあります。

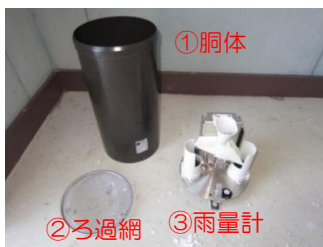


H26年1月

このため、機器の損傷を防ぐ観点などから、毎年この時期に雨量計を取り外し、雨量局を閉局（観測業務を終了）しています。

なお、開局（観測業務の再開）は、雪解け後の5月上旬を予定しています。

### 《雨量計の構造》



左の写真は、雨量計を取り外した状態です。これは「転倒ます型雨量計」と呼ばれるもので、この機器で雨量（降水量）を観測しています。円柱状の胴体①の中に、②ろ過網、③雨量計が入っています。

観測方法は次のとおりです。

- (1) ろ過網で不純物を取り除いた後、雨水が④ろ水器に入る。
- (2) ⑤転倒ますに一定量溜まると、転倒ますがシーソーのように転倒。
- (3) 転倒回数を計測することにより雨量を観測します。（転倒1回で1mm）

### 《観測データの重要性》

観測データは、主に流域全体の降雨状況の把握、今後の出水状況を判断する資料等に活用されるため、ダム管理上重要なデータとなります。

ごみ等が詰まった場合には、適正な観測ができなくなるため、落ち葉や昆虫の巣を取り除くなど、定期的にメンテナンスを行っています。



# 下湯ダム貯水池内の巡視点検を行いました

下湯ダムでは、ダムの安全性や機能を保持するため、巡視船にてダム施設等の巡視点検を行っています。下湯平成湖（ダム湖）は、冬期間、湖面が凍結してしまうため、今年はこれが最後の出動です。

主に※網場（あば）のねじれ、網の破れの有無、貯水池周辺斜面の崩壊の有無、堆砂状況等について、目視点検を行いました。

今年は、8月に台風が立て続けに来襲したため、改めて巡視点検を行いました。新たな斜面崩壊等は確認されませんでした。

※網場（流木止め：浮きを連ねて網を張ったもの）



網場の点検



堆砂状況調査



取水塔

スクリーン部の流木除去



周辺斜面の巡視

## 駒込ダム掲示板を更新しました（駒込川沿川、駒込ダム建設所）

駒込ダム建設所では、駒込ダムの必要性や事業の進捗状況を掲示板にてお知らせしています。掲示板は、駒込ダム建設所前と駒込川沿いに4箇所設置しています。駒込川沿いの設置場所は、下流から八甲橋、松桜橋、南桜川橋、駒込橋のいずれも左岸側です。

今年度の工事用道路工事の完成に伴い、掲示板を更新しましたので、付近を通行の際は是非ご覧ください。

### 駒込ダム建設工事实施状況のお知らせ

駒込ダムに関するお問い合わせ  
東海地域環境用地整備部 駒込ダム建設所  
住所 青森市中央3丁目20-1  
TEL 017-777-3812

#### ～駒込ダムの必要性～

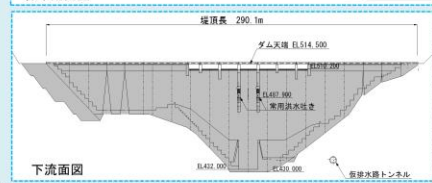
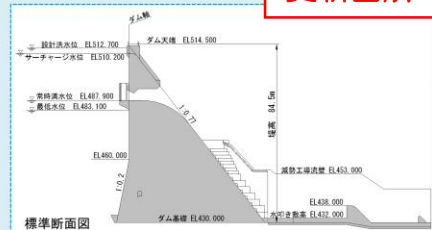
堤川は、横内川、合子沢川が合流し、私たちの住む青森市のほぼ中央を流下しながら、下流の住宅密集地で駒込川を合流して青森湾に注いでいます。堤川水系は過去にたびたび大雨による被害を受けている、洪水の危険度が高い川です。

このため、県では堤川水系の河川改修を進めるとともに、下湯ダム、横内川多目的遊水地を計画的に整備してきており、駒込ダムが完成することで堤川や駒込川の洪水を防ぐことができます。

#### 駒込ダムの概要

- 目的：・洪水を防ぎます  
・河川環境の保全・かんがい用水等を確保するために水を流します  
・ダムの水を有効利用して発電を行います
- 形式：重力式コンクリートダム
- 堤高：84.5m
- 堤頂長：290.1m
- 総貯水容量：7,800,000m<sup>3</sup>

更新箇所



#### ～駒込ダムができるまで～



#### ～工事の進捗状況～

2016年11月現在、準備工事として、ダム本体の材料となる砕石などを運搬するための道路を建設しています。工事現場にはアクセスする道路がなく、地形も急峻なため、すべての箇所ですり片押し施工（一方からのみ工事を進める方法）が行われています。

～4号工事用道路施工状況～

平成20年4月よりダム堤体河床部への連絡道路となる4号工事用道路の工事を進めています。道路の規模は、幅7m、延長約1,000mです。

進捗状況は、延長約500mが完成しており、残り約500mのうち400mは構築区間となっています。今年は、約50mの構築工事（3号機）を行いました。

現場は急峻な斜面であり、かつ、特殊な地質を呈しています。そのため、大規模な改良を行います。現場での構築部材の運搬・架設が容易で工期短縮も図れるメタルロード工法にて工事を行っています。

【施工事例】写真撮影所については、上の航空写真の丸を参照ください。

1号工事用道路完成区間

4号工事用道路（3号機）今年度施工区間

3号機

至 ダム堤体河床部

